



ひまわり

第17回歳末チャリティ餅つき大会



令和2年12月5日(土)、今年で17回目となる歳末チャリティ餅つき大会を実施することが出来ました。

コロナ禍での開催ということもあり、感染対策を十分に行いながらの餅つきになりましたが、今年もたくさんの方が買いに足を運んでくださいました。ありがとうございました。

また今年も、NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク代表の岩井俊宏さんに協力していただき、帝京大学の学生も数名参加しました。地域の方々と若者が一緒になって餅をつき、教え教わりながら、互いに有意義な時間を過ごせたと思います。

今年度決算 売上57,750円

歳末たすけあい募金へ	12,750円
西地区まちづくり基金へ	45,000円

つき手コメント

年末の恒例行事になっている西地区の餅つき、今年はコロナの影響もあり子供達が参加できなかったのが残念でしたが、地元の大学生も参加して良い経験になっていたようです。地域の先輩方からコツを教わり、それを若い青年たちに知ったかぶりをしながら教えるのも楽しみの一つだと思います。

翌日の筋肉痛も含めて年末の風物詩になっていますが、イベントの少ない今年、久々に楽しいイベントでした。

西地区スポーツ協会 三柴 一朗

大学生コメント

僕たちは西地区での餅つき大会を行って、地域の方々が求めていることに見事に応えているなと感じました。

老若男女の方々が、関わり合いの中で生まれる笑顔が印象的で、関係性が育まれていることを実感しました。また、こうした関わりや体験も初めてで、自分も地域の取り組みに関わってうれしかったです。

このような活動は今後も継続して実施していくことが必要だと思いました。

帝京大学地域経済学科乗川ゼミ
福田稜将、川又我聞、南木晴海



購入者コメント

毎年楽しみにしているのでも、今年も実施していただけてよかったです。つきたてのおもちを買って、娘と食べました。まだ温かくて、やわらかくて、とてもおいしかったです。きなこもたっぷりかかっている、子供にも好評でした。スタッフの方達も、コロナ対策など大変だったと思いますが、細やかな気配りをして下さりありがとうございました。

湯澤 宏江



第17回 西地区大運動会

～密を避け、元気な笑顔はじける～



コロナ禍での西地区大運動会

西小学校長 渡邊 誠

今年度は、新型コロナウイルス拡大防止のため、長期休校となり、西地区大運動会も10月24日(土)に延期され午前中のみ開催となりました。コロナ禍によりストレスを発散できなかった子供たちにとって、運動会は、競技や演技に澆刺と取り組む絶好の機会となりました。

特に高学年の児童は係活動に責任を持ち、自己有用感を感じたことと思います。

前日から降り出した雨のため、運営は難航が予想されましたが、スポーツ協会、PTAの皆様のご協力によりスムーズに開催できました。小規模校の本校にとっての問題点、少子高齢化といった点を補い合えるウィン＆ウィンの在り方だということを感じました。



赤組応援団長 飯野 凌平

4年生から毎年応援団員を務めていたばくにとって、団長の長いたすきは憧れでした。団長に決まった時は、嬉しい気持ちと同時に立派にやりとげなければいけないとい

う責任感が生まれました。それから誓いの言葉や優勝旗の持ち方など毎日練習しました。

大会前夜から当日の入場行進前はすごく緊張したけれど、渡部先生と湯澤先生がたすきを巻いてくれた時に勇気もらい、自信を持って臨むことができました。

コロナに負けない運動会だったけど、来年は大きな声でエールを送り合える運動会に戻れるといいなと思います。

第17回西地区大運動会

西地区スポーツ協会長 宇賀神 茂

前日は雨が降り続き、天候が不安でしたが当日は太陽も見え、令和2年度の西地区大運動会も無事に終了することが出来ました。

今年度は、コロナの影響で日程が5月から10月に延期になり、午前中のみ開催となったため、競技の変更もやむを得なくなりました。

当日はスムーズな進行が出来ず皆様にはご迷惑をお掛けするところもあったかと思えます。ですが、皆様のご協力のおかげで大きなアクシデントもなく進めることができました。ありがとうございました。

コロナ禍で暗い話題も多い中、参加する人も応援する人も全員が笑顔で楽しんでもらえるよう、これからも努力していきます。



白組応援団長 柏崎 尋夢

僕は、今回の西地区大運動会で白組応援団長を務めました。今年は新型コロナウイルスの流行の影響で、学校行事が次々と中止となる中で、短縮とはいえ開催となりほっと

しました。応援合戦が出来なかったのはとても残念でしたが、運動会を盛り上げる大事な責務を負った応援団長を務めるのに少し自信がなかったのですが、家族や親戚から「頑張れ」という言葉をもらい、運動会当日は自分の持てる力をふりしぼり、全力で取り組み、なんとか役目を務め上げることが出来たと思います。

中学校に行っても、自分から進んで物事に取り組み、信頼される人になりたいです。

敬老を祝う音楽会の開催 令和2年11月28日



勇壮なひまわり太鼓の演奏

毎年9月の第2土曜日に開催していた『敬老を祝う音楽会』は新型コロナウイルスの影響を受け、2ヶ月遅れの11月14日(土)を予定しましたが、知事・市長選のため11月28日(土)に実施することになりました。感染が徐々に広がりつつあるため、予防には万全の準備をしての開催となりました。

元気いっぱいひまわり太鼓の演奏で始まり、ピアノ演奏・ギター演奏と参加者全員が楽しいひと時を過ごすことができました。



1年生 波多野夏萌さん

わたしは、ピアノとたいこをがんばりました。少しまちがえましたが、たくさんはくしゅをもらってうれしかったです。



2年生 内記里緒さん

私は敬老会で『ミュゼット』という曲をひきました。ちょっとだけひけなかったけど、一生けんめいがんばりました。また出たいと思います。



4年生 波多野美晴さん

私はピアノも太鼓も間違えないように、そして喜んでもらえるように演奏しました。二つとも緊張したけど、良い思い出になりました。



5年生 中郷紫櫻さん

敬老を祝う音楽会では、みんなに分かる曲を弾こうと思い、鬼滅の刃の『紅蓮華』と山口百恵の『絶体絶命』を演奏しました。

緊張して上手に弾けませんでした。皆さんに聞いてもらえてうれしかったです。

他の人も上手だったので、もっと練習しようと思いました。ギターを始めてまだ1年半ですが、色々な曲に挑戦し、発表したいと思います。また来年も敬老を祝う会があったら出たいです。



6年生 波多野渚月さん

私は、コロナ禍でイベントが少ない中、地域の人に希望を届けたいと思い、参加しました。児童代表のあいさつでは、長寿の方々へお祝いの気持ちを込めて言うことができました。また、和太鼓の発表では、練習の成果を発揮し、楽しく演奏することができました。ピアノの発表では、日本の曲『さくらさくら』を曲の雰囲気表現しながら演奏できました。私はこの音楽会を通して地域活動の大切さを感じました。これからも、積極的に地域のイベントに参加していきたいです。



6年生 鈴木夏音さん

私は敬老会でピアノを弾くと決まったとき、唱歌を演奏することにしました。ピアノを始めて10年になりますが、コンクールに参加するためクラシックしか弾いたことがなく、童謡を4曲仕上げるのはとても大変でした。中でも『里の秋』は、戦争に行ったお父さんが無事に帰ってくるよう待ちこがれた歌なので、情景を思い浮かべながら表現することに苦労しました。

聞いて下さった方々が、季節に合った曲ときれいな音色だったと喜んでくれたことが嬉しかったです。

※皆さんからいただいた文を、紙面の都合上で少し変えました。演奏そして文を書いてくださりありがとうございました。

西地区文化財紹介シリーズ (第4回)

本郷睦会の人形山車



この山車は、本郷睦会に伝えられている人形山車です。形は「外輪二層式人形山車」とされるものです。山車を支える車輪は、外輪式の四輪で、山車本体の一層目に箱型の土台があり、その上に甲冑を着けた神功皇后、赤子の応神天皇、その応神天皇を抱いた武内宿禰の三体の人形を飾る二層式となっています。

人形の製作者は、三代目原秋月です。秋月は文政9年(1826年)に江戸の人形師の家に生まれ若くして父の跡を継ぎ、明治32年(1899年)に73歳で亡くなりました。

その間、人形山車の製作に多く携わり、幾多の名品を残しています。現存するのは、関東地方で約30体ほどあります。県内では栃木市を始め各地に数台残されています。

本郷町の山車は、原秋月が本郷町に移り住んで人形の製作にあたったといわれ、明治14年(1881年)10月に完成しました。

この人形が乗せられている山車の大きさは横幅173 cm、奥行372 cm、高さ197 cmで、山車の周囲は雲に龍の彫刻が施され、それぞれに金箔や緑・赤・青・紫色の極彩色でいろどられています。その他にも浪や鯉・

おしどり・カワセミなどの水鳥の彫刻も施されています。

数年前、市内の有志により復元された新石町の火焰太鼓山車とともに二荒山神社前で展示されたのでご覧になった方も多いと思います。本来、菊水祭の渡御行列に続いて巡行され、地区としても誇れる山車の一台です。

Voice

三条町南部自治会(吉成俊夫会長)は、令和2年度、宇都宮市が実施している「自治会加入促進・活性化事業」市内3か所のモデル自治会の一つとしていくつかの先進的な取り組みを行っております。その事例について紹介します。

～住めば愉快的自治会を目指して!～

三条町南部自治会では、住民の高齢化と地域づくりの担い手不足の課題がありました。より暮らしやすい地域にしていくために、地域外の若者の



力(帝京大学乗川ゼミの先生と学生)を借りて、今年度から地域の暮らしの困りごとの改善等に取り組む活動を始めました。お茶を飲みながら困りごとや健康の相談ができる「暮らしのことなんでも相談カフェ」では、一人暮らしで庭の樹木の管理や落ち葉拾いができない、スマートフォンの使い方がわからないなどの相談に、自治会と大学生と一緒に応えていきました。お聞きした困りごとは、後日、自治会員・大学生20名と市職員とで相談者宅に行き、庭木の剪定や落ち葉の片づけ等を行いました。現在、次年度も継続して取り組んでいけるよう準備しています。

自治会の範囲外に暮らす若者の参加による地域住民の生活課題の改善等に取り組む「新しい共助」ができればもっと安心できる地域につながると思っています。

編集後記

令和2年度は、コロナ禍ということで、いろいろな行事が中止になりました。幸い西地区では、各地域団体・学校等の協力により、感染に配慮しながら子どもを中心に行事を行うことができました。早くコロナが収束し、子ども達を中心に地域が元気になってほしいです。(編集者一同)